



平成22年12月14日

## エアゾール缶等に係わる火災にご注意を！

～ 暖房器具やガス器具の近くでの使用・取扱いは大変危険です ～  
エアゾール缶等に係わる火災は、大掃除シーズンの12月とその後の1月に多く発生していることから、当庁では、エアゾール缶等の取扱いについて注意を呼びかけています。

### 【エアゾール缶等とは】

- 可燃性ガスを噴射剤とした殺虫剤、整髪剤及び消臭剤等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料として用いられるボンベを合わせています。

### 【火災発生状況】

- 最近5年間（平成17年～21年）のエアゾール缶等に係わる火災（以下エアゾール火災）は919件で、死者3人、負傷者282人と多くの死傷者が発生しています。また月別で見ると、1月、3月及び12月の冬季に多く、特に1月と12月で全体の3割を占めています。本年は、11月30日現在で141件発生し、56人の負傷者が発生しています。（別紙「1火災状況」、「2月別火災件数」参照）
- 発生要因別で見ると、残ったガスを抜くための穴あけやエアゾール缶等を回収した塵芥車荷箱内からの出火など廃棄に係わる火災が全体の約8割を占めています。（別紙「3火災発生要因」参照）

### 【主な出火原因】

- エアゾール火災は、多くが廃棄方法や取扱方法の不適で発生しています。（別紙「4主な出火原因」参照）

### 【火災を防ぐために】

- 殺虫剤等のエアゾール缶は、LPGなどの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認することが必要です。（別紙「5火災を防ぐために」参照）

### 【万が一火災が発生した場合は】

- 「大きな声で家族や周囲の人に火災を知らせる」、「近くに火災報知機の非常ベルがあればボタンを押して火災を知らせる」、「119番通報をする」ことが重要です。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

### 問い合わせ先

東京消防庁 代 電話 3212-2111  
予防部調査課 内線 5062 5066  
広報課報道係 内線 2345～2350

別紙

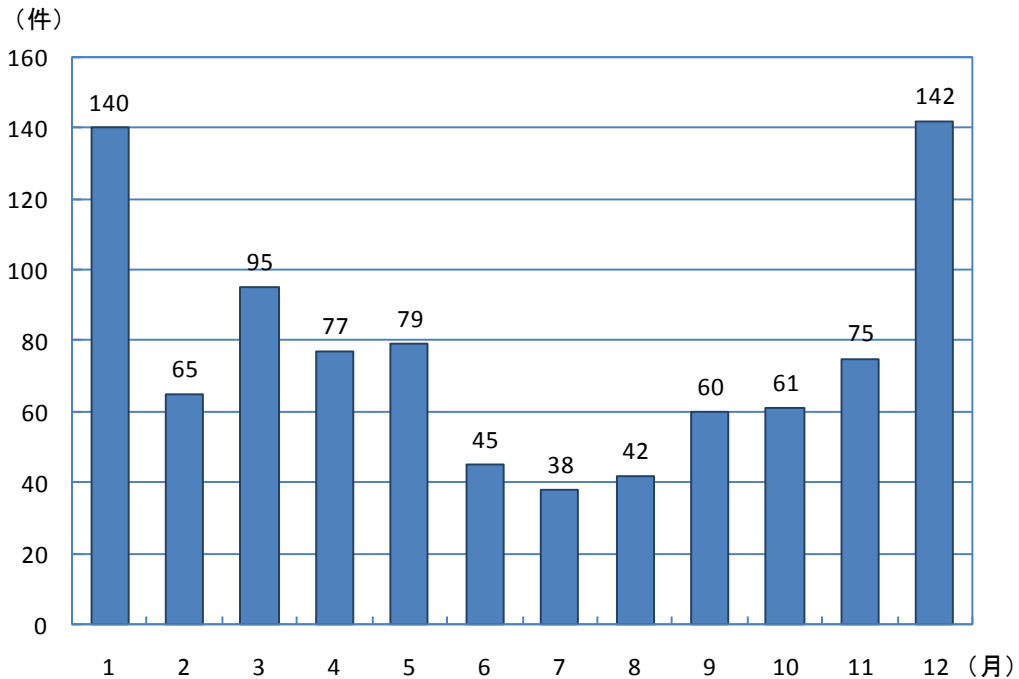
1 火災状況（平成 17～22 年）

年 別	火災件数									焼 損 床 面 積	焼 損 表 面 積	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他					
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
合計	919	306	3	7	14	282	593	1	19	842	285	222,161	3	282
17	161	52	2	2	1	47	104	-	5	340	32	50,382	2	51
18	165	48	1	-	2	45	112	1	4	60	20	12,088	-	39
19	180	62	-	2	3	57	115	-	3	133	94	37,743	-	65
20	206	67	-	1	2	64	135	-	4	102	41	81,530	1	74
21	207	77	-	2	6	69	127	-	3	207	98	40,418	-	53
22	141	55	-	1	4	50	84	1	1	115	83	31,263	-	56

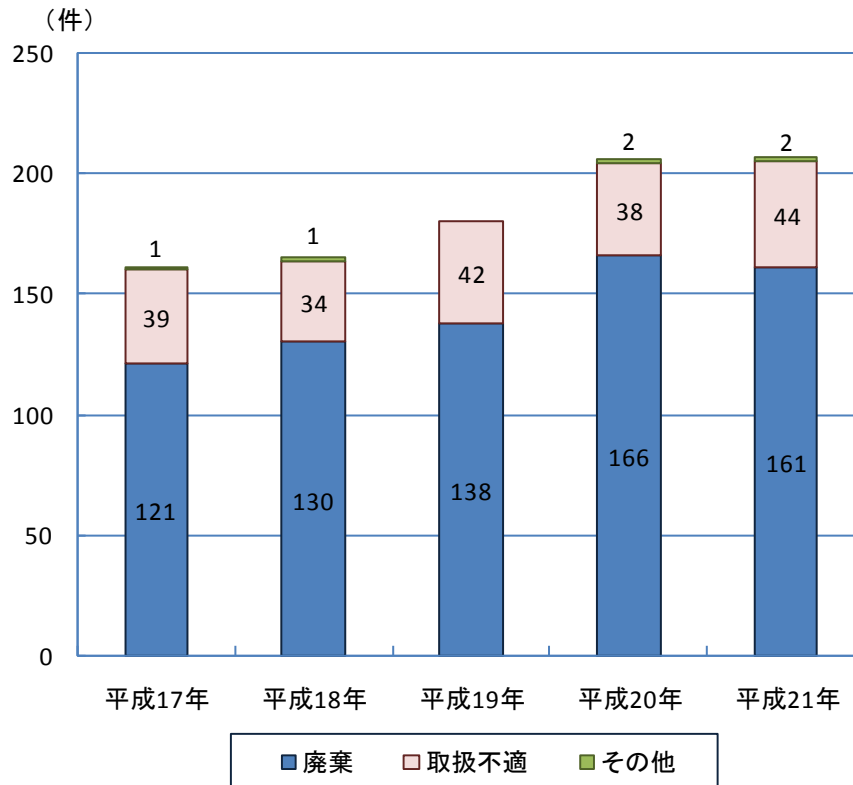
※1 合計欄の数値は、平成 17 年から平成 21 年の合計値です。

※2 平成 22 年の数値は 11 月 30 日現在の速報値で、後日変更される場合があります。  
(以下同じ。)

2 月別火災件数（平成 17～21 年）



### 3 火災発生要因（平成 17～21 年）



### 4 主な出火原因

- (1) 使い残しや残ガスを排出するため、ドライバーや缶切り等で缶に穴を開けた際、噴出したエアゾール缶内の残存ガスが、近くで使用していたガステーブルやガスストーブ等の炎に引火して火災となっています。
- (2) 使い切らずに、不燃ごみとして捨てられたエアゾール缶等が、塵芥車の荷箱内で圧縮された際に残存ガスが噴出し、圧縮時等に発生した火花に引火して火災となっています。
- (3) エアゾール缶等を暖房器具や厨房器具の近くに置いたため、エアゾール缶等が過熱され、内圧が高まって破裂し、噴出したガスに引火して火災となっています。
- (4) 暖房器具や厨房器具の近くで、ゴキブリやハエに殺虫剤等のスプレー缶を使用したため、噴射した可燃性ガスに引火して火災となっています。
- (5) 風呂場でエアゾール式の洗浄剤を使用後に風呂釜を点火し、滞留していたガスに引火して火災となっています。

### 5 火災を防ぐために

- (1) 廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別区分を守って捨てましょう。
- (2) 厨房器具や暖房器具の側など、高温となる場所に置かないようにしましょう。
- (3) 住宅防火対策として、火災の発生をより早く知るために「住宅用火災警報器」、火災を拡大させないために、火がついても燃え広がりにくい「防炎品」、火災の被害を最小限に抑えるために「住宅用消火器」などを設置しましょう。

なお、異常が認められた消火器や不要になった消火器の点検や処分については、購入したお店又は消火器メーカーなどにお問い合わせください。

最寄りの消防署でも、専門業者をご紹介することができます。

※区市町村の清掃事業では、不要になった消火器の回収は行っていません。

## 火災事例「燃料ポンベのガス抜き直後に発生した火災」

発生場所 八王子市

出火日時 平成 21 年 11 月 20 時ごろ

用途等 共同住宅 防火造 2/0 延 368 m<sup>2</sup>

被害状況 建物ぼや 流し台、吊り戸棚及び蛍光灯各 1 台所用品若干焼損

### 概要

この火災は、共同住宅 2 階台所から出火したものです。

出火原因は、ガス抜きのために穴をあけた燃料ポンベを流し台シンク内に放置したままガステーブルを点火したところ、放出したガスがガステーブルの炎に引火したものです。

発見、通報及び初期消火は、火元者が燃料ポンベの穴をあけた後、ガステーブルを点火すると燃料ポンベから漏れたガスに引火したため、濡れた雑巾を燃料ポンベに被ましたが消火できず、自動火災報知設備の警報音に気付いた隣室居住者 2 人が、消火器による初期消火と携帯電話から 119 番通報をしています。

写真 1 出火場所の状況



写真 2 流し台シンク内の状況



## 火災事例「ガスファンヒーターで過熱されたヘアスプレー缶が破裂して出火した火災」

発生場所 板橋区

出火日時 平成 22 年 3 月 8 時ごろ

用途等 住宅 準耐火造 3/0 延 90 m<sup>2</sup>

被害状況 建物部分焼 2 階 8 m<sup>2</sup>等焼損 負傷者 2 人

### 概要

この火災は、住宅の 2 階居室内から出火したものです。

出火原因は、ガスファンヒーターの近くに置いていたヘアスプレー缶が過熱され、内圧が高まって破裂し、ガスファンヒーター内のバーナーの炎が噴出したガスに引火したものです。

発見及び通報は、居住者の女性が、ガスファンヒーターのあたりから爆発音が聞こえたので、振り返って見るとカーテンが燃えているのを発見したため、近隣者に通報を依頼し、依頼を受けた近隣者が自宅の電話で 119 番通報しました。

初期消火は、居住者の男性及び近隣者が、粉末消火器及び水道からホースを延長して初期消火しました。

この火災で火元建物にいた 2 人が煙を吸うなどして負傷しています。

写真 3 焼損状況



写真 4 出火前の状況を再現したもの



**【実験映像】**

1 暖房器具の近くにエアゾール缶等を置いた場合

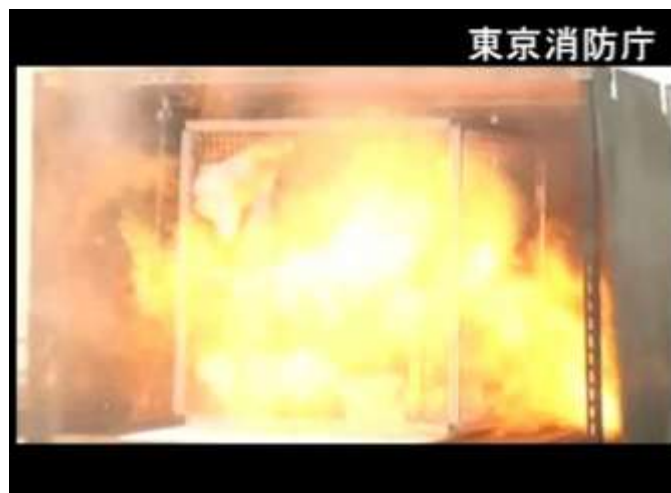
(1) 実験開始直後の状況



(2) 過熱によりエアゾール缶等が破裂した状況



(3) 破裂により噴出したガスに引火した状況



2 カセットこんろの側でエアゾール缶等の穴あけをした場合

(1) カセットこんろの側でエアゾール缶等の穴あけをした状況



(2) 穴あけにより噴出したガスに引火した状況



(3) ガスに引火後、延焼拡大した状況



3 カステーブルを使用中にエアゾール缶を使用した場合

(1) こんろを使用中にエアゾール缶を噴射

a 実験開始時の状況



b 噴射したガスに引火した状況



c 噴射を継続した状況





(2) グリルを使用中にエアゾール缶を噴射

a 実験開始時の状況



b 噴射したガスに引火した状況



c 噴射を継続した状況



#### 4 裸火の近くでエアゾール缶を噴射した場合

##### (1) エアゾール缶を噴射する前の状況



##### (2) エアゾール缶を噴射した状況

